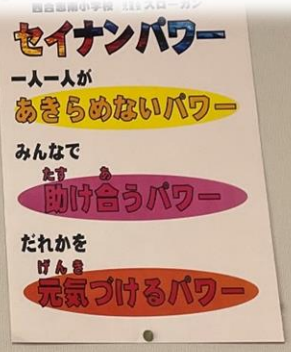
西合志南小学校 学校だより 文責 田中 宏和

西南小の風

だれかのために じぶんのために いっしょうけんめい

日々精進

令和6年2月8日 第41号



学力向上は学校の使命です。「くまもとの教職員像」の中にも、教職員の基本的資質の二番目に「使命感と向上心」があります。ちなみに、一番目にあるのは、「教育的愛情と人権感覚」、つまりは人間性あっての教育です。

学力・学習状況調査は、四月（市）と十二月（県）の二回あり、比較が出来ます。毎年、四月に実施される全国学力学習状況調査は国の調査で、小六と中三のみが対象です。

市・県・国、それぞれで行う学力・学習状況調査の目的は全て同じです。子どもたち個々の学力・学習状況を見て、その上で今後の我々の指導や、子どもたち自身の学びに生かすのが目的です。ただ、同じ調査を一斉に行うので、県や地域、学校毎に比較したり、全国や県の平均と比較したりすることがあります。そうした比較があくまで、その↘後の学びや指導が目的ならいいのですが、単に他を下に見るような材料になるのなら全くのナンセンスです。ひところ話題になったように、過去問や練習問題をさせることの是非は、教師の「わかる、できるようにしたい」、子どもの「わかる、できるようになりたい」という目的意識の一致が大切だと思います。それがなければ、子どものやらされ感が強くなり、効果はありません。過去問等によって本来すべきことが出来なかったり、子どもたちの生活に何らかの支障が出る場合も同様です。前述の「くまもとの教職員像」にあるとおり、「教育的愛情」がまずは大事なのです。

さて、今回の結果は上表のとおりです。一番こだわりたいのは、四月から八ヶ月間の指導の成果です。上表は学校全体の概要ですが、結果は学級、個人で細かく出ます。担任は「わが学級」、学年主任は「わが学年」、私は「わが学校」という意識を強く持って、その上で向上・維持・低下等の結果を受け止めなければなりません。

受け止めて終わりではありません。調査の目的は、あくまでも今後の指導や学びに生かすことです。これからが本番なのです。低下したなら、せめて四月同等の学力レベルに戻すために精一杯努力すべきでしょう。また、維持、向上した結果でも、さらに向上するよう努力すべきです。目の前の子どもたちを「自分が伸ばす！」というプライドは、職員のセイナンパワーの一つとしています。

指導力の向上を図るためには、結果を分析する力が大切です。分析とは、子どものつまずきの箇所、つまずいた要因等をデータから探り、課題解消の方法を考え、これから二ヶ月間の取組に落とし込む作業です。これは時間も手間もかかることですが、これには「働き方改革」なんて関係ありません。…と、教育事務所の指導主事にも来ていただき、緊張感ある中で叱咤激励した昨日の校内研修でした。

ここで念を押してお伝えしたいのは、これは一生懸命に指導した結果だということです。だから、望む結果が出なかった職員は、当然自分の指導のいたらなさを感じがっかりします。落ち込む気持ちは組織力でカバーです。また、これらの調査は客観的なものですが、各職員の指導の一面を評価したに過ぎず、これが全てとは思いません。

厳しい結果も自分でガッチリ受け止める、転んでもただでは起きない等、そんな強さや前向きさを持った教師となるべく、これからも職員一同精進して参ります。

熊本県学力・学習状況調査の結果

※調査対象は３年生以上の１７学級
※教科は国語・算数とi-check
※「標準スコア」とは、定着率の全国平均を５０とした時の本校の数値
※i-checkとは、右下表にあるそれぞれの項目について複数の質問による
アンケートによって、個人や学級の状況・傾向を図る調査のこと

1　学力（数値は学級数）

項目＼教科		国語	算数
標準スコアの４月比	向上	10	10
	維持	3	4
	低下	4	3
正答率４割以下の児童数	減少	10	9
	維持	3	1
	増加	4	7
全国平均を上回る学級数		9	4
県平均を上回る学級数		6	4

2　i-checkについて

各項目の総合肯定率の４月比	向上	4
	維持	2
	低下	11
各項目の総合肯定率の全国比	以上	8
	同じ	4
	未満	5
各学年の良い・伸びた内容○	右表記載	
各学年の課題・改善すべき内容△	右表記載	

i-check項目		３年	４年	５年	６年
自己認識	家族のささえ				
	友だちのささえ				
	先生のささえ				
	成功体験と自信		○		
	充実感と向上心				
	感動体験				
	他者からの評価			○	
社会性	規範意識				
	思いやり	○			○
	発信力				△
	対話・話し合い	○	○		○
	社会参画			○	
学級環境	学級の規範意識	△	△		
	学級の絆				
	いじめのサイン	○		○	
	対人ストレス				
習慣	生活習慣				○
	学習習慣			△	
	学習意欲		○		